

## アワーミュージアム

第16号 2001年6月25日発行



## 10歳になった博物館友の会

寺戸恒夫（友の会会長）

友の会が発足して今年で10年になります。産みの親は元館長の千地万造先生をはじめとする県立博物館の皆さんで、文化の森完成の翌年、平成3（1991）年4月に誕生しました。

少しずつ成長していき、平成8年ごろには475キロ（人）の体重となりました。このころから少年期に入り、昨年は549キロ（人）まで増加してきました。会員の皆さん方の親睦も深まり、最近では定着率は7割前後に向上しています。少年としての体力と知力、さらに心が成長してきたものと思います。

会の発展とともに、博物館から会員への通信、会員相互の意思疎通や意見発表などの窓として、会報が望まれてきました。そこで、平成7年度に「友の会だより準備号」が出されました。翌年6月には「アワーミュージアム」が発刊され、今回で16号を迎えました。

活動の内容も内から外へ、観察から実験へと充実し、変化に富むものになりました。はじめての



地引き網（1993年）

園瀬川釣り大会では、文化の森前の狭い川で40センチを越える大物のナマズが何匹もつれて、皆をびっくりさせました。吉野川のハゼ釣り、北の脇海岸の地引き網、潮干狩り、漂着物探し、野外観察会、写生大会、バザーなどの楽しい思い出が続いています。

見学も、はじめは県内で行いましたが、そのうちバスを利用して県外に出向くようになり、さらにそれが年2回になりました。室戸半島、淡路島、坂出市、姫路市などを訪ね、充実した研修を重ねました。そして昨年11月には、ついに飛鳥への1泊研修が実現しました。

活動の高まりはシンボルマークの必要を呼びました。平成11年はじめ、会員の応募の中から恐竜と銅鐸を組み合わせたすばらしいマークができあがりました。

少年は10年でこのように成長してきました。成長は博物館当局の絶大なご援助によることはいうまでもありませんが、その間の会員の皆さんのご協力も見逃せない事実です。そろそろ、育てて頂くばかりでなく、博物館をもり立てる年ごろになったと思います。それだけ会員の皆さんの今後の活動が期待されます。園瀬川探検のような地域調査活動は、そのような意図のもとに組まれたも



昔の農具にさわってみよう（1997年）

のです。少年の成長と同じく、目に見えない少しずつの積み重ねこそ力になります。皆さん！少年を大人にまで育ててみようではありませんか。

## アオバズクをさがそう

しばおりふみあき  
柴折史昭（友の会会員）



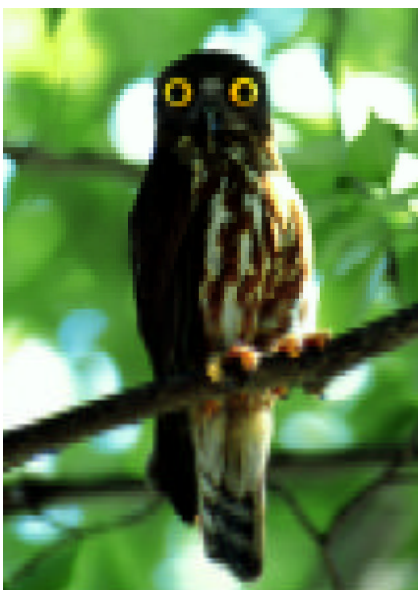
アオバズクは、フクロウの仲間で、大きさはハトくらいです。冬は東南アジア方面ですごし、日本へは、青葉の季節に渡って来るので、名前に「アオバ」がついています。ちなみに「ズク」はミミズクのことです。フクロウ類をさします。

写真のようにフクロウ類の特徴である、丸く大きな顔と目をしてしています。このまんまるの目の虹彩が黄色いのも印象的です。

初夏のころ、「ホーホー、ホーホー・・・」と単調に繰り返す鳴き声を聞いて、フクロウだと思ひこんでいる人がたくさんいます。フクロウは「ホーホー、ゴロスケ、ホーホー」と鳴きます。「ホーホー」ばかりを繰り返して鳴いているのは、このアオバズクの方なのです。

アオバズクは、木にあいた穴を巣にしているので、ムクノキ、クス、エノキなどの大木や古木のある山林や、神社の林などに住んでいます。

しかし、最近は、巣ができる大木や古木のある



アオバズクの成鳥

神社や林が少なくなってしまったので、アオバズクもずいぶん減っています。巣をつくる場所だけでなく、餌となる昆虫が少なくなってい

ることも、アオバズクの減少の原因かもしれません。

それでも、意外にみなさんの身近に、例えば、徳島市内の人家密集地にある神社、それも大木が数本だけ、といった所に毎年やってきてヒナを育てることがあります。

4、5月は、高い木の枝や、電線、屋根のテレビアンテナなどにとまって、しきりに「ホーホー、ホーホー・・・」と鳴きます。

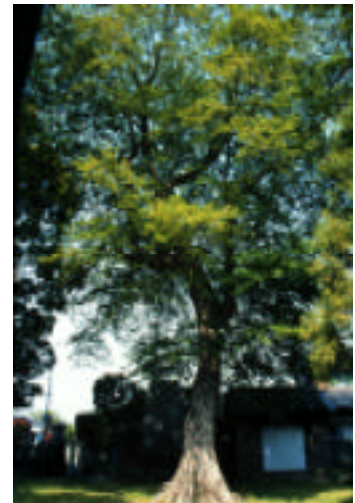
5月ごろ、木の穴の奥に卵を産み、7月ごろに1～4羽のヒナが巣立ちます。ヒナが巣立つと、親鳥とヒナが同じ枝にいっしょにとまっているのを見ることができます。

アオバズクは、ガ、セミ、甲虫など、飛んでいる虫を空中で捕らえます。ときには、コウモリ、小鳥なども捕らえて食べてしまいます。

うす暗くなるころ、活動をはじめ、昆虫を求めて活発に飛び回りますので、日没ころが、もっとも姿を見付けやすい時刻です。

近くの神社に穴のあいた大木があれば、夜に鳴いていないか、日没ごろにハトくらいの鳥が飛び回っていないか、さがしてみてください。

運良くアオバズクがいることが分ければ、7月中旬ごろに、かわいいヒナ連れの家族を見ることができるかもしれません。



アオバズクが繁殖する神社の木

### お願い

アオバズクとフクロウがどれくらい生息しているか調査をしています。声を聞いた、姿を見た、という情報がありましたら、ぜひ教えてください。

連絡先 柴折史昭（〒771-0376 鳴門市北灘町折野  
字屋敷72 TEL 088-682-0686）



たなばた  
七夕 - 女性が早朝に髪を洗う日 -  
かみ  
せき  
まゆこ  
真由子 (友の会会員)



七夕といえば、短冊を笹竹に吊して軒下に飾るなど、涼やかで夏らしい行事として知られている。起源は古く、すでに奈良時代には宮中で行われており、近世になって民間に広く普及していった。中国から入ってきた星祭りの性格を強く感じさせる一方、古来から日本にあった信仰や先祖祀りとの関係をうかがわせる習俗も多く伝承されている。

日本には古来から罪や穢れがある時や神事の前に、川や海で身を洗い清めたり、厄災を除き去るために紙の人形などに託して水に流すなどの信仰があった。徳島県の市町村史によると、古くは旧暦7月6日の夕方に笹竹を飾って供え物をし(宵七夕)、翌7月7日朝には川に流すことが多く行われていたようである。つまり七夕は、本来は「流す」こと、穢れや厄災を送り神に託して流すことに重点がおかれていたことが想像できる。

また、7日は井戸をさらうとしている地域も多く、用水で灯明皿など油を使う道具を洗う、墓地への道の草刈りをするともいわれていた。旧暦7

月は盆の月でもあり、盆の行事と重なる習俗が行われていることが注目される。

平成2年夏、羽ノ浦町の七夕飾りを撮影するため、数軒のお宅を訪問



ムクゲ

した。最初の家で笹竹にムクゲの枝が添えられていたので、その理由を尋ねたところ「分からない」とのお返事。次の家で確認をすると「笹にムクゲを添えることはしないが、葉を叩くとヌルヌルした液が出るので、それで髪を洗っていたらしい」、さらに別の家では「七夕の早朝に女の人が、ムクゲで髪を洗っていた」と話していただいた。

その後の聞き取り調査で、七夕の早朝に女性が、それも夜が明けないうちに髪を洗う習慣が、徳島県全域で行われていたことがわかった。「油がよく抜ける、髪がきれいになる」などといわれ、昭和20年頃まで行われていたところもあった。ムクゲはシャンプーの役割を果たしていたわけで、他にビナンカズラの葉などを用いる場合もあった。洗髪に使う水は特に流水がよいとされ、谷川で髪を洗った経験を持つ女性もいた。また、森本嘉訓氏の『徳島民俗事例集』(昭和57年発行)には、「年に一回七夕の日に洗った」、「普段に洗うとお宮のカラスが死ぬ」などの事例が記載されており、七夕の洗髪が大きな意味を持っていたことがうかがわれる。

七夕の早朝に髪を洗う習俗は、日頃、家事労働や農作業に忙殺されている女性たちが、心も新たに清々しく、先祖の霊を迎えようとした姿ではなかっただろうか。



ムクゲを添えた七夕飾り (1990.8.6 羽ノ浦町)

自著を語る



『阿波近世用語辞典』

たかた とよてる 高田豊輝（友の会会員）

ライフワークにしていた『阿波近世用語辞典』が完成しました。県外で就職した私は、きわめて幸運の巡り合わせで帰郷でき、昭和35年から独学で系図解読や村の歴史を調べていました。すると、またまた幸運の巡り合わせで郷土史研究の大御所・飯田義資先生のお目に留まって、昭和39年から毎月2回教えて頂けることになりました。

相弟子は三原武雄、藤丸昭、福家健二の3氏で、先生と合わせて5人で歴史書等を読むので「五読会」と名付けていました。

教えて頂いたことをメモしておくだけでは後々探しにくいので、1項目を原稿用紙1枚ないし数枚に書いて50音順に並べていました。半年ほどで40cmほどの厚さになり、扱いが不便なので、昭和40年6月、自分の手書きガリ版で冊子にしたのが『阿波近世用語集』第1版です。本文は650項目ほどの収録でした。

これを飯田先生に補足訂正して頂き、本式の冊子にするために2回書き直し、謄写版屋に頼んで本にしたのが第2版です。本文はB5判で230頁あり、収録は1,700項目ほどでした。昭和44年1月にでき上がり600円で売ったのが、30年後の古書目録では20,000円になっていました。

その後勉強するたびに補足訂正を加え、10年後にはほとんど全項目におよんだので、書き直しをしなければならない責任を感じ、昭和60年から改訂版作りに着手しました。

幸に桑井薫氏をはじめ数人の方々が資料を提供して下さり、この度できた本は本文がA5判で399頁、2,700項目ほどの収録になりました。

付録として、難読語の読み方が17頁、難字解読辞典に載っていない難読字が26頁、蜂須賀家歴代が12頁、各時代の士卒の人数表が7頁、天

正ないし平成の年号表（<sup>うるうつき</sup> 閏月記入）が5頁で合計467頁になりました。

本文の内容は、蜂須賀家の統治時代および明治初年に阿波・淡路の記録に現れる用語の読み方および簡単な解説を書き、各項末に関連項目を書き出してあります。

今回は古文書を読む会の方からよく質問される最高敬語の読み方や記録に現れる若干の方言および誤読・誤説が一人歩きしている項目等も収録して一言書き加えてあります。

印刷に出して1年近くたち、この間にも史料提供があつて、校正の段階で相当補足訂正したので、徳島県教育印刷（株）の方には迷惑をかけました。一昔前までの印刷方式では困難であったと思います。



発行所：徳市勝占町中須 27-1・高田豊輝

定価 5,000 円

著書

- 徳島市勝占地区西部史草案 (昭和38年著)
- 阿波藩御家中分限帳写 (昭和39年編)
- 阿波藩土屋敷録 (昭和39年編)
- 徳島市勝占地方史(1) (昭和44年著)
- 方上小学校百年誌 (昭和51年共著)
- 徳島市南部の民俗(1) (昭和54年編著)
- 徳島の方言索引 (昭和58年著)
- 徳島の方言 (昭和60年著)
- 藍染めは誰でもできる(1) (昭和60年著)
- 源義経勝占の足跡 (平成元年著)
- 勝占中部の民俗と歴史(2) (平成5年共著)
- 大松小学校百二十年史 (平成7年共著)
- 小学校教員高田牛太郎の日記 (平成8年編著)
- 文六寺案内 (平成11年著)

博物館紹介15



徳島県立佐那河内いきものふれあいの里

よしだ かずと  
吉田和人（友の会会員）

「この黄色い実をつけとんが、ナガバノモミジイチゴって言うて、木イチゴの中では一番うまいんですよ。」植物担当の指導員からフランクな説明を受けている自然観察会の参加者たち。「へえー、これって食べられるんで？」<sup>はんしんはんぎ</sup>半信半疑で味見をしています。さらに歩を進めるうちに、参加者一同びっくりするような光景を目にすることになります。「これがツタウルシで、<sup>さわきょうれつ</sup>触ると強烈にかぶれるですよ。特に気をつけて」と言いながら、それを平然と手に取って説明していくのです。見ている方の体が何やらかゆくなってきそうです。

こんな<sup>ふんいき</sup>雰囲気<sup>ふんいき</sup>の自然観察会を、植物、野鳥、小動物の各指導員が担当し、年間30数回開催しています。加えて、徳島県自然環境協力員を対象としたネイチャースクールを年間10回ほど行っています。これらは、よりアカデミックな性格をもたせており、高名な外部講師による講義や実地研修も受けられます。

愛称<sup>あいしょう</sup>「佐那河内いきもの愛ランド」とも呼ばれ、平成4年7月、名東郡佐那河内村にオープンしました。JR徳島駅から車で約1時間、<sup>ひがしさんけい</sup>「東山溪県立自然公園」や、旭ヶ丸（標高1,019m）東西一帯に広がる<sup>おおがわら</sup>大川原高原にあります。区域面積は900haにもおよび、その中には、中心施設の「ネイチャーセンター」がある「センターゾーン」と、「野鳥観察の森」や「水生動物観察の谷」など6つの自然観察スポットが配置されています。

各スポットには駐車場や休憩舎<sup>ちゅうしゃじょうきゅうけいしや</sup>、自然観察路などが整備されており、セルフガイドを基本としていますが、<sup>あらかじようせい</sup>予め要請があれば常駐する自然観察指導員がビジターに対応する体制を取っています。前述の定期観察会の他にも、個人や団体・学校などグループでの観察会も受け付けておりますの



ネイチャーセンターと自然観察会風景

で、環境教育の場として是非ご利用下さい。

キャンプ場やバンガローの施設もあり、低料金で利用することができます。他に、昼間だけの利用に限るデイキャンプもあります。

<sup>と</sup>捕らえられた野生生物を狭い空間の中で見るのではなく、自然の中で自由に生きるその生き様を、<sup>のぞ</sup>そっと覗かせてもらおうとの基本理念から、館内飼育は最小限にとどめています。さあ、一緒に自然の息吹を感じに出かけてみましょう。

（徳島県立佐那河内いきものふれあいの里・自然観察指導員）

徳島県立佐那河内いきものふれあいの里

ネイチャーセンター

開館時間 午前9時～午後4時  
休館日 月曜日（祝日の時は翌日）  
年未年始（12/28～1/4）  
入場料 無料  
所在地 名東郡佐那河内村上字大川原5-8  
TEL & FAX 088-679-2238

キャンプ場

利用期間・利用時間  
（キャンプ）毎年7月20日～9月10日  
チェックイン 13時～16時  
チェックアウト 10時  
（デイキャンプ）毎年4月20日～10月10日  
利用時間 9時～16時  
予約受付期間 毎年4月1日～10月10日  
申込先 ネイチャーセンター  
TEL 088-679-2238



友の会行事報告



しおひがり

潮干狩りに参加して

たまき 房 (友の会会員)

こども達を楽しみにしていた潮干狩りの日の朝、あいにく外は曇り空。お昼前には雨が降り出してしまいました。集合時間の30分前には本降りに。今日は残念だが中止だろうと思いつつ問い合わせの電話をすると係の方はもう出発されたとのこと。こども達は、「やったあ！行こう、行こう！」と歓声をあげ集合場所に急ぎました。

集合時間に少し遅れて到着。カッパを着込み長靴を履いて準備万端。水辺に下りて行くついでに博物館の方達と2家族の方達が来られていました。

私達もさっそく貝を掘り始めました。8歳の長男は、次々にあさりを掘り当て、「あっ、おった、またおった！お母さん、ここ、ようさんおるなあ！」と大きな声で次々に報告してくれます。5歳の次男も主人の横にしゃがんで小さな熊手で一生懸命探しています。兄に負けまいと、「あっ、こっちにもおる、これ大きいなあ、お父さん」と大声で楽しそうに言っています。私も小粒ですが次々と採れるのが面白くてすっかり夢中になって掘りました。こども達は、あさり以外の貝を掘り当てる度に、歓声を上げていました。

1時間ぐらいたったところで博物館の方が大きなスコップで掘ったオオノガイ、マテガイ、ハマ



悪天候にも負けず貝を掘る(2001.4.29 徳島市沖洲海岸)

グリ、そして参加者が掘ったアサリ、ウスガイ、イソシジミ、カガミガイ、その他シャコやカニの個々の説明をして下さいました。大きな貝ほど口が長く、深くもぐれることや、アサリは色々な模様の貝殻に変身して鳥に見つからないようにしていることなど教えて戴きました。長男は、この日の宿題の日記にアサリの模様のことや長い口の貝は深くもぐって生活していることを驚きを交えて書いています。

2時間ほどで掘った小粒のアサリをバケツに半分と、その他頂いた色々な種類の貝を海水で洗い、キャンプ用の水タンクに砂出し用の海水を汲んで満足感一杯で帰路に着きました。

翌日の夕食にアサリは味噌汁、ワイン蒸しに、その他の貝は直火でお酒、お醤油をかけて焼いて戴きました。オオノガイは少し固く大あじで美味とは言えませんでした。他の貝はとても柔らかくおいしく戴きました。こどもたちも自分たちが一生懸命採った貝なので一層おいしく感じたのか、「おいしいなあ！」を連発しておりました。採る楽しみ、食べる楽しみと2回も楽しませて戴き、本当にありがとうございました。



友の会行事報告



こどもの日フェスティバル

～文化の森ウォークラリー～

場 所：文化の森総合公園

日 時：5月5日(土) 9:30 ~ 16:00

参加者：1,009名

恒例の行事として定着してきたこどもの日フェスティバルですが、今年は文化の森全体をつかってウォークラリーを実施しました。10のチェックポイントで出される難問奇問(?)を解きながらゴールをめざします。文化の森をほぼ1周するコースにこども達は意気揚々でしたが、大人は

少々ばて気味な様子でした。9時30分に受付をすませて、10時過ぎにはゴールに飛び込んだ泉圭祐君(八万中1年)は『思ったより難しかった。特に階段の数を数えるのが途中で分からなくなりました。でも、とてもおもしろかった。』と額に汗をにじませながら感想を語ってくれました。

また、博物館常設展のチェックポイントでは、今年もおりがみ研究会の方々が大活躍してくれました。チラノサウルスやアパトサウルスを折る問題にどのこも四苦八苦。そんなこども達にきばきと指示しながらかわいい作品を次々と完成させてくれました。

友の会役員さんも友の会の宣伝に、受付や参加賞の配布にと大忙しの1日でした。寺戸会長さんをはじめ役員の方々の熱心な勧誘で会員の輪がますます大きく広がることでしょう。

好天に恵まれたこどもの日。こども達の健やかな成長に、この行事が少しでも役だってくれればと願ってやみません。



漁船展示施設のチェックポイントで



折り紙で恐竜を作る

## 平成13年度総会の報告

4月22日午後2時より、博物館3階講座室において、友の会総会が開催されました。

20名の参加をいただき、12年度の事業および決算報告・監査報告、13年度の事業および予算案についての審議が行われ、承認されました。

平成13年度友の会事業計画

- (1) 役員会、総会の開催
- (2) 友の会行事の実施
- (3) 会報『アワードミュージアム』の発行
- (4) 博物館発行の展示解説、図録等の増刷、販売
- (5) 博物館催し物等の案内：博物館ニュースのほか、毎月の催し物案内、企画展チラシ等の送付
- (6) その他：常設展無料観覧、ミュージアムショップの利用割引、図録の購入割引

平成13年度友の会の行事(予定)

- ・潮干狩り【北沖洲】 4月29日(日)
- ・こどもの日フェスティバル【文化の森一帯】  
5月5日(土)
- ・第4回園瀬川探検【上八万町】  
6月10日(日)
- ・夜の昆虫かんさつ【佐那河内村】  
7月28日(土)
- ・縄文土器の模様をつくろう【博物館実習室】  
9月15日(土)
- ・第5回園瀬川探検【佐那河内村】  
9月下旬
- ・秋の研修会【岡山県蒜山高原 鳥取県大山】  
10月13日(土)～14日(日)
- ・第6回園瀬川探検【佐那河内村】12月上旬
- ・冬の研修会【高知方面】 1月中～下旬
- ・企画展・特別陳列説明会  
『クントウル・ワシ神殿の発掘』説明会

4月22日(日)

『門出のセレモニー』説明会

6月6日(日)

『勝瑞時代 - 細川・三好氏と  
阿波 - 』説明会

11月3日(土)・18日(日)

『信仰と美術』説明会

3月17日(日)

\* 行事についての詳しい案内は、  
随時お送りします。ふるってご参  
加ください。

平成13年度友の会役員

会 長：寺戸恒夫

副会長：天羽利夫(博物館長)・

和田賢次・関真由子

幹 事：石原 侑・徳山 豊・

多田精介・森本嘉訓・

鎌田幸子・南部洋子・樫原剛一・

竹原初江

監 査：森本康滋・川下浩子

## 《事務局からのお知らせ》

ミュージアムショップが生まれ変わりました

開館以来、来館者の方々に親しまれてきたミュージアムショップの経営が、徳島そごうから(株)アイハラに変わりました。今までの商品に加え、新しい商品も今後、充実させていく予定で、ここにしかない商品をそろえたいと社員の方もやる気満々です。文化の森にお立ち寄りの際には、ぜひ、のぞいてみてください。

全商品10%引きの会員特典は、従来どおりですので、お買いあげの際には、友の会会員証を提示してください。

平成12年度決算および13年度予算

### 収入

項 目	12年度予算	12年度決算	13年度予算
前年度繰越金	172,823	172,823	3,149
会費	510,000	542,000	510,000
図録売上	911,000	714,690	642,500
行事参加負担金	280,000	302,600	259,000
雑収入	50,000	5,370	5,000
事務局整備積立基金			341,000
合 計	1,923,823	1,737,483	1,760,649

### 支出

項 目	12年度予算	12年度決算	13年度予算
図録印刷費等	440,000	373,820	470,000
館利用促進費	60,000	44,682	50,000
行事費	650,000	598,657	610,000
通信費	450,000	503,820	500,000
事務局費	95,823	59,875	60,649
報償費	48,000	26,000	30,000
事務局整備基金積立	100,000	60,000	
総合案内積立金	80,000	67,480	40,000
次年度繰越金		3,149	
合 計	1,923,823	1,737,483	1,760,649

13年度友の会会員

6月1日現在の会員数は家族会員84組329名、個人会員97名、計426名です。各行事に積極的に参加して、会員の輪をより大きく確かなものにしていきましょう。

会報「アワーミュージアム」の原稿募集

この会報では、みなさんの原稿を募集しています。研究成果の発表はもちろん、身の回りのできごとで博物館に関係のあることなど、どんどんお寄せください。

園瀬川探検、2年目に

この企画は、園瀬川流域の自然と文化を会員自らが調べようというもので、今年度は2年目になります。ふるってご参加ください。

友の会事務局メンバーが一部変わりました

今年度は喜田正浩(事務局長)、米益麻夫、山口英二、佐藤陽一、長谷川賢二、坂本和裕となりました。友の会結成10周年を迎え、張りきっています。みなさんのご協力をよろしくお願いします。

## 第16号

2001年6月25日 発行：徳島県立博物館友の会  
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内  
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197

徳島県立博物館友の会会報

アワーミュージアム



No. 16

June  
2001  
Tokushima  
Prefectural  
Museum